

兩岸がV字状で花崗岩質であった。

ここより少し下ると、F3六段とF2六段が現れる。F3は直瀑で、左岸をヤマブドウのつるにつかましながら降りる。その下のF2はナメ滝で、なんなく通過。

左岸より一五段の滝をかけて小沢が合流した。そしてそのすぐ先に橋ゲタが出てきた。地図にある橋ではないが、もう沢は終わりに近い。行動食を軽く腹にいれて歩き始める。今は橋脚だけとなってしまった、

一三号国道の一番古いルートにかかる名残の橋を過ぎると、すぐ二俣。すぐ右俣が合流。そして旧一三号国道の橋。一三号国道も目の前であ

シン沢右俣

一九八二年六月二十二日

天気晴。一四時一五分、遊行開始。

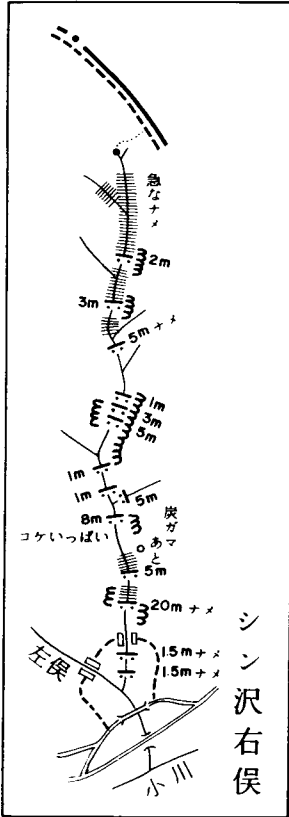
水量はぐつと少ない。この沢は、雪どけ時期や大雨のあと以外は、いつ

もわずかの流れでしかない。

右俣に入ると、すぐにナメ滝。どまん中を登る。その上の五段滝を越えると、一〇〇段ほどのナメが続く。沢幅が狭く、樹林の中なので、ナメ特有のそう快さは味わえない。

カモシカの足跡がいつばいついている。どうも通り道になっているようだ。左岸に昔の炭焼き釜のあとを見る。

八段のコケいつばいの滝が出てき



た。すべらないよう、気をつけながら登る。このあたり、ちよつと雰囲気がいい。次の五段は、どまん中を直登。水が多ければこんな芸当はできない。もっとも左右どちらでも簡単に登れる。

沢幅も狭くなってきた。もうこの沢も終わりだ。急なナメを登りきると、岩の間からしみだす水が水源となっていた。遊行終了一四時五〇分。

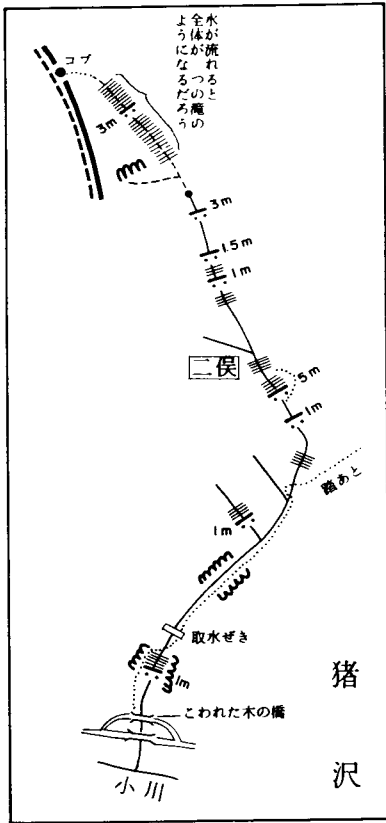
ここから右手尾根上めざしてヤブをこぐ。尾根上には、わずかだが踏跡があった。(記)

猪 沢

標高約八六〇位のピークまで登ってから、猪沢に向けて下降開始。す

一九八二年六月二日

「タイム」 出合(二四・一五) ↓沢終了(二四・五〇) ↓尾根(一五・〇〇)



猪 沢

ぐにカレ沢に出る。急な岩場の下りで、ブッシュにつかまりながら下る。雨が降って水が流れると、一つの大きな滝となりそうだ。

傾斜がゆるやかとなってきたあたりで水が出てきた。ナメと小滝が出てくるが、平凡だ。五段の滝を越えると、沢の切れ込みが深くなってきたが、単調さは変わらない。

踏跡が出てきた。左岸の小尾根から下ってきて、沢ぞいはずっと続いている。どうもこの沢はハズレのよ